

へ紹介

## 史料館所蔵史料目録第十二集

(津輕家文書目録)

### 蝦名庸一

史料館は周知のように文部省の管理のもとにあつて、わが国の史料のうち、主として近世の文書や記録を収集し、保存し、さらに収集した史料の分類整理や基本調査、史料に関する啓蒙普及等の諸事業を行っている公の機関である。昭和二十四年度に三井文庫を買収し、東京都品川区豊町一丁目十六番の十号に所在する。事業の一つとして、所蔵史料の整理が完了したものから逐次目録を編集しているのであるが、去る昭和四十一年三月、第十二集として津輕家文書の目録が発行された。目録の部分九四ページ、解題一三ページのものである。

この津輕家文書は、太平洋戦争の戦災をまぬがれて、東京都新宿区下落合の津輕邸に保管されていたもので、それが昭和二十三年に津輕義孝氏から史料館にそっくり引継がれたのである。総点数約三千五百点に及ぶ文書や記録類で、現存する弘前藩関係史料の約三分の一と目されている。

弘前藩の研究史料のうち、弘前市立図書館には故外崎覚氏等によって集められ且つ保存されて来た津輕古圖書保存会文庫や、故岩見常三郎氏によって収集された岩見

文庫、さらに四千五百冊に及ぶ藩日記を含む津輕家からの依託文書が所蔵されているが、これらと史料館にある津輕家文書とで弘前藩関係の史料が大凡揃うということになる。しかし勿論これらは、藩政史料が主で、地方支配に関する庶民史料ではない。

史料館蔵の津輕家文書は、最も古いところで永享・宝徳の「口宣集」や天正・慶長期の「御内書」が数点含まれているほかは、年代的には寛永以降明治にいたるものであるが、主として江戸中期以後のものが大部分を占める。以下目録の分類に従つてその大要を紹介しよう。

領知関係としては、領知未印状・判物の原本とそれらの写が領知目録と共に揃っている。これらの領知状は、元来版籍奉還の際に領知確認の証として明治政府に提出したはずのものであるから、どうして津輕家に残つたかは不思議とされるのであるが、それだけに珍重され、図版などに利用されたりしている。その他郷村高帳、文化十年に郡奉行より提出した「御郡中村名書上帳」や寛政十二年の弘前分間図などがこの項に出ている。

藩臣関係のものでは、藩祖爲信の家譜が多く、歴代系譜も揃っている。系図改めには、津輕家と近衛家との関係を示す史料が寛永十八年のもので存在し、興味がひかれる。また明治以後のものであるが、明治政府の国史編集にからんで、修史館から系図提出を命ぜられたとき、の書類が比較的よく揃っている。歴代年譜・名書や家督



弘前城中、家中屋敷割  
及居住者人名図

1. 延宝四年(一六七六)図
2. 天和三年(一六八三)人名
3. 森林助氏「弘前城史」附図に加筆す。

1  
3,600

